

富山県下公的病院の肝疾患患者調査(第2報)

富山県農村医学研究会

石田 礼二 渡辺 正男
北川 鉄人 大浦 栄次

私たちは昭和57年11月に、県下22公的病院に受診中の肝疾患患者を調査し、その概略は昭和58年の富山県農村医学研究会誌に報告した。今回はその調査のうち、家業が農業である農家世帯の患者の占める割合を、男女別、年齢別に検討したので報告する。

調査方法

1. 調査医療機関：県下22公的病院
2. 調査期間及び対象：昭和57年11月の1ヵ月間に診療した原発性肝疾患患者
3. 病名の分類：表1の通りであるが、8のその他の肝疾患は殆どが保険病名と思われたので、集計からははぶいた。

表1 病名の分類

番号	病名
1-①	急性ウイルス性肝炎 A型
1-②	同上 B型
1-③	同上 非A非B型
2-①	慢性肝炎 B型
2-②	同上 その他
3	アルコール性肝障害
4	薬剤性肝障害
5-①	肝硬変症 B型起因
5-②	同上 アルコール性
5-③	同上 その他
6	HBVキャリア
7-①	肝細胞癌 HBV(+)
7-②	同上 その他
8	その他の肝疾患

HBV：B型肝炎ウイルス

表2 家業別男女別の割合

家業	男(%)	女(%)	計(%)
農業	280(34.2)	189(37.1)	469(35.3)
その他	539(65.8)	320(62.9)	859(64.7)
計	819(100)	509(100)	1,328(100)

調査結果

疾患別人数は前回報告した通りで、1,363人のうち、慢性肝炎が53.1%を占め、次に肝硬変症17.9%、アルコール性肝障害11.0%、急性ウイルス性肝炎 8.1%であった。今回は家業が農業である人の占める割合を検討する。

1. 全肝疾患のうち農業の人の占める割合
表2の通りである。農家の人は肝疾患患者1,328人中 469人、35.3%であった。又男は34.2%、女37.1%と女の方が男より農家の割合が高かった。しかし有意の差はなかった。

2. 疾患別の検討

1) 急性ウイルス性肝炎(表3)

表3 急性ウイルス性肝炎

	男	女	計
総数	59	47	106
農家	21	13	34
%	35.6	27.7	32.1

表4 慢性肝炎

	男	女	計
総数	441	271	712
農家	165	110	275
%	37.4	40.6	38.6

表5 アルコール性肝障害

	男	女	計
総数	115	29	144
農家	38	10	48
%	33.0	34.5	33.3

表6 薬剤性肝障害

	男	女	計
総数	37	25	62
農家	9	9	18
%	24.3	36.0	29.0

農家は106人中34人、32.1%であったが、男35.6%、女27.7%と男女差がみられた。

2) 慢性肝炎(表4)

急性肝炎に比し男女共農家の割合は大きく、男37.4%、女40.6%、全体で712人中275人、38.6%であった。急性肝炎と異なり、男より女の方が大であった。

3) アルコール性肝障害(表5)

農家の占める割合は、144人中48人、33.3

%で、男女差はなかった。

4) 薬剤性肝障害 (表6)

62人中18人、29.0%であったが、女36.0%、男24.3%と男女に差がみられた。

5) 肝硬変症 (表7, 8)

238人中76人、31.9%で、慢性肝炎に比し少なかった。又慢性肝炎と同様男29.0%、女35.5%と女の方が多かった。肝硬変症を起因別に分けてみると、表8の通りで、B型肝炎起因肝硬変は26.2%であったが、アルコール起因は32.6%とB型肝炎起因より高かった。アルコール起因の肝硬変症では男29.0%、女40.0%と、女に農家の割合が高かった。

6) HBVキャリア (表9)

41人中10人、24.4%と、他疾患に比し農家の人の占める割合は小さかった。又男15.0%、女33.3%と男が少なかった。

7) 肝細胞癌 (表10)

表7 肝硬変症

	男	女	計
総数	131	107	238
農家	38	38	76
%	29.0	35.5	31.9

表8 肝硬変症(成因別)

	B型起因			アルコール			その他		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総数	27	15	42	31	15	46	73	77	150
農家	7	4	11	9	6	15	22	28	50
%	25.9	26.7	26.2	29.0	40.0	32.6	30.1	36.4	33.3

表9 HBVキャリア

	男	女	計
総数	20	21	41
農家	3	7	10
%	15.0	33.3	24.4

表10 肝細胞癌

	男	女	計
総数	16	9	25
農家	6	2	8
%	37.5	22.2	32.0

表11-① 年令別(肝疾患全体)

年令	総数	農家	%
~19	7	3	42.9
20~	62	25	40.3
30~	162	48	29.6
40~	238	72	30.3
50~	406	151	37.2
60~	276	103	37.3
70~	177	67	37.9
計	1,328	469	35.3

表11-② 年令別,男女別(肝疾患全体)

年令	男			女		
	総数	農家	%	総数	農家	%
~19	5	2	40.0	2	1	50.0
20~	36	15	41.7	26	10	38.5
30~	115	34	29.6	47	14	29.8
40~	155	45	29.0	83	27	32.5
50~	246	81	32.9	160	70	43.8
60~	162	66	40.7	114	37	32.6
70~	100	37	37.0	77	30	39.0
計	819	280	34.2	509	189	37.1

表12-① 年令別(慢性肝炎)

年令	総数	農家	計
~19	4	2	50.0
20~	32	14	43.8
30~	101	38	37.6
40~	130	47	36.2
50~	221	90	40.7
60~	141	55	39.0
70~	83	29	34.9
計	712	275	38.6

表12-② 年令別,男女別(慢性肝炎)

年令	男			女		
	総数	農家	%	総数	農家	%
~19	3	1	33.3	1	1	100.0
20~	21	9	42.9	11	5	45.5
30~	73	26	35.6	28	12	42.9
40~	81	28	34.6	49	19	38.8
50~	130	50	38.5	91	40	44.0
60~	80	32	40.0	61	23	37.7
70~	53	19	35.8	30	10	33.3
計	441	165	37.4	271	110	40.6

表13-① 年令別(肝硬変症)

年令	総数	農家	計
~19	0	0	0
20~	1	0	0
30~	8	0	0
40~	27	9	33.3
50~	96	28	29.2
60~	56	16	28.6
70~	50	23	46.0
計	238	76	31.9

農家の人は25人中8人、32.0%であったが、男37.5%、女22.2%と男の方が多かった。

3. 年令別の検討

10才間隔で区分してみた。肝疾患全体では表11の通りで、19才まで、20~29才は共に40

表13-② 年令別,男女別(肝硬変症)

年令	男			女		
	総数	農家	%	総数	農家	%
～19	0	0	0	0	0	0
20～	0	0	0	1	0	0
30～	4	0	0	4	0	0
40～	15	4	26.7	12	5	41.7
50～	58	12	20.7	38	16	42.1
60～	29	11	37.9	27	5	18.5
70～	25	11	44.0	25	12	48.0
計	131	38	29.0	107	38	35.5

%台であり、30才代、40才代は30%前後、50才以後は各年代共37%台であった。男女別にみると、若い層を除くと男は60才代、70才代が40%近く、女は50才代、70才代が40%前後の値を示した。

疾患別では患者数の多い慢性肝炎、肝硬変症について年令別の検討を行った。

1) 慢性肝炎(表12)

若年層を除くと、各年代共35～40%と大きな差はなかった。男女別では、男は50、60才代が38.5%、40.0%と高く、女では70才代を除き各年代共高い傾向にあり、50才代は44%であった。

2) 肝硬変症(表13)

20才代、30才代の患者9人はすべて農家以外の人であった。又70才代で農家が46%と高かった。男女別では、男は60才、70才代が高く、女は60才代の18.5%を除き、各年代共40%以上を示した。

考 察

今回の調査の目的は、県内の肝疾患患者のなかで、農業従事者、あるいは農村地帯の居住者の占める割合を知ることにあつた。第1報では、農業従事者の占める割合は21.6%、家業が農業の人は35.3%であったことを報告した。農業従事者は、昭和57年1月の統計では、201,740人であり、昭和55年の国勢調査による16才以上の人口853,500人に対する比率は23.6%である。肝疾患患者のうち、農業従事者の占める割合21.6%は、23.6%より低い。

この比較では、肝疾患は特に農業従事者に多いことはないと思われる。

家業が農家の場合の割合35.3%は、農業従事者の21.6%より明らかに高い比率を示した。

これは農家世帯の人数は一世帯平均5人で、他の世帯の平均3.4人より多いことが影響しているであろう。この数値が多いか少ないかを比較する基準人口は次のようにした。昭和57年1月の統計による県下農家世帯数は70,250戸で、県下全世帯数の24.1%に当たる。この農家人口は約348,100人、うち男165,600人、女182,500人である。当時の富山県の人口を昭和56年末の統計でみると、男533,893人、女572,275人、全人口1,106,268人である。この人口に対する農家人口の割合は、男31.0%、女31.9%、全体では31.5%となる。ここではこの比率を基準にして、肝疾患患者のうち農家の占める割合を検討することにする。ただし公的病院は都市部にあるが、農家、非農家が平均して同じように公的病院を受診するものと仮定した。

1) 全肝疾患について

農家の人は、男34.2%、女37.1%、全体では35.3%と、何れも高いが、推計学的には有意差はなかった。

年令別の検討では表11の通りであったが、50才以上において各年代共37%と同じ割合であったが、有意差はなかった。男女年令別では、女の50才代の43.8%が高かったほかは、各年代ではばらつきが多く、明らかな傾向はみとめられなかった。

2) 疾患別の検討

薬剤性肝障害、HBVキャリアを除いて他疾患は、基準の31.5%より高かったが、慢性肝炎の38.6%を除いて有意差はなかった。又男女別の検討でもすべて有意差は認められなかった。慢性肝炎、肝硬変症については、年令別の検討もしたが、特に有意差はなかった。

慢性肝炎で農家の人が多いことは、肝炎

の慢性化、肝硬変症への移行を考えると、重要な問題である。慢性肝炎はビールス性肝炎からの移行が主であるが、急性ビールス性肝炎は農家に特に多くはなく、しかるに慢性肝炎が多いことは、急性肝炎の治療の過程で、何か問題があるのであろう。農業という労働が原因なのであろうか。前回の報告で、農業従事者の集計では表14のごとく、農業従事者の占める割合は23.6%

表14 職業と慢性肝炎

	B型肝炎	その他	計
総数	145	576	721
農業	39	131	170
%	26.9	22.7	23.6

多くなり、労働としての農業の影響より、農家世帯、或いは農村地帯の人たちの、疾病に対する対応、理解の面に問題があることを示唆する。このことは、女性において

急性ビールス性肝炎が少ないにもかかわらず、慢性肝炎、肝硬変の割合の多いことから推察できる。急性肝炎罹患時の、医療側の十分な指導が望まれる。

む す び

県下公的病院で診療中の肝疾患患者の調査を行い、農業との関連を検討した。

- 1) 肝疾患全体では農家の人の占める割合は35.3%であった。これは県下農家人口の占める割合31.5%より高いが有意差はなかった。
- 2) 疾患別では慢性肝炎に農家の割合が38.6%と高かった。急性肝炎に際し農家の人たちへの医療上の十分な指導が望まれる。

終わりに、本調査に御協力いただいた県下公的病院の方々に深謝します。